



令和3年2月26日

## 「課題解決型高度医療人材養成プログラム」（平成30年度選定）の 中間評価結果について

この度、課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成30年度選定）について、中間評価を実施しましたので、その結果をお知らせします。

### 1. 事業の概要

本事業は、我が国が抱える医療現場の諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療を提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成することを目的として、平成26年度より、実施しております。

この度、平成30年度より実施している「精神関連領域」及び「医療チームによる災害支援領域」について、事業の中間年度を迎えたことから、中間評価を実施しました。

### 2. 中間評価について

中間評価は、各選定事業（7件）の進捗状況を検証し、適切な助言を行うことで、今後の事業の実効性を高めること、及び本事業の趣旨や成果を社会に情報提供することを目的としています。

課題解決型高度医療人材養成推進委員会（別添1）において中間評価の実施方法を決定し、同委員会の専門委員（別添2）が分担して書面評価を行ったうえ、現時点での進捗状況や成果等を確認するとともに、当初目的通りの達成が可能か否かについて、評価結果を（別添3）のとおり取りまとめました。

#### 【選定大学】

精神関連領域：筑波大学、千葉大学、東京大学、京都大学（計4大学）

医療チームによる災害支援領域：東北大学、新潟大学、熊本大学（計3大学）

<本件に関する問合せ先>

高等教育局医学教育課医学教育係 田村・笠原・佐々木

電話 03-5253-4111(3306)

## 課題解決型高度医療人材養成推進委員会委員名簿

- |              |             |                                   |
|--------------|-------------|-----------------------------------|
| えとう<br>江藤    | かずひろ<br>一洋  | 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構<br>副理事長    |
| ○ おおしま<br>大島 | しんいち<br>伸一  | 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター一名誉総長         |
| おかじま<br>岡島   | さおり         | 公益社団法人日本看護協会常任理事                  |
| おまつ<br>尾松    | もとき<br>素樹   | 公益社団法人日本歯科医師会常務理事                 |
| たけだ<br>武田    | じゅんぞう<br>純三 | 独立行政法人国立病院機構東京医療センター一名誉院長         |
| つじ<br>辻      | てつお<br>哲夫   | 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授                |
| ながた<br>永田    | たいぞう<br>泰造  | 公益社団法人日本薬剤師会常務理事                  |
| はとり<br>羽鳥    | ゆたか<br>裕    | 公益社団法人日本医師会常任理事                   |
| はんだ<br>半田    | かずと<br>一登   | チーム医療推進協議会代表<br>公益社団法人日本理学療法士協会会長 |
| やまぐち<br>山口   | いくこ<br>育子   | 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML<br>理事長   |

計10名(○:委員長)

五十音順(敬称略)

## 課題解決型高度医療人材養成推進委員会専門委員名簿

### 【精神関連領域】

かしわぎ 柏木	かずえ 一恵	日本精神保健福祉士協会 理事 浅香山病院医療福祉相談室 精神保健福祉士
かやま 萱間	まみ 真美	聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授
つがわ 津川	りつこ 律子	日本大学文理学部心理学科 教授
ひぐち 樋口	すすむ 進	独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 院長
てらおか 寺岡	せいたろう 征太郎	和洋女子大学看護学部 准教授
みむら 三村	まさる 將	慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 教授
やまだ 山田	きよふみ 清文	名古屋大学医学部附属病院 教授
よしお 吉尾	たかし 隆	東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室 教授

計 8名  
五十音順 (敬称略)

## 【医療チームによる災害支援領域】

いしかわ ひろみ  
石川 広己

千葉県勤労者医療協会かまがや診療所 所長

かさい しゅういち  
笠井 秀一

一般社団法人兵庫県薬剤師会 会長

こいど ゆういち  
小井土 雄一

独立行政法人国立病院機構本部 DMAT 事務局長

さいとう ひでゆき  
斉藤 秀之

公益社団法人日本理学療法士協会 副会長

さかもと てつや  
坂本 哲也

帝京大学医学部附属病院 病院長

帝京大学医学部救急医学講座 主任教授

ささき けいいち  
佐々木 啓一

東北大学 副学長

東北大学大学院歯学研究科 教授

つきのき けいいち  
槻木 恵一

神奈川歯科大学大学院歯学研究科口腔科学講座 教授

なかむら はるき  
中村 春基

一般社団法人日本作業療法士協会 会長

計 8名  
五十音順（敬称略）

「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」所見

令和3年2月26日

## 1. 事業の概要

本事業では、医療現場等で課題となっている事柄に貢献できる人材の養成を公募テーマに設定し、科学的根拠に基づいた医療を提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成することを目的として、平成26年度より、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させる取組を支援し、これからの時代に応じた医療人材の養成を推進している。

近年、多様化かつ増大する精神医療に係るニーズや、災害時における急性期から慢性期、復興期までを視野に入れた医療チームによる医療支援活動等へのニーズに対応するため、平成30年度から、新たに「精神関連領域」と「医療チームによる災害支援領域」の2テーマを設定し、職種を横断した体系化された新たな教育プログラムを確立することにより、精神医療及び関連疾患に特化した知識・技能を有する医療人材や、医療チームで災害医療全般に対応するプロフェッショナル人材を養成する大学を支援している。

## 2. 中間評価で確認できた成果

本委員会では、今年度3年目を迎えた「精神関連領域」と「医療チームによる災害支援領域」における取組の進捗状況や成果を検証し、評価結果を各大学にフィードバックすることにより、今後の事業の推進に役立てることを目的として中間評価を行った。

教育プログラム・コースの構築状況については、令和2年9月末時点で、2つのテーマで新たに18の教育プログラム・コースが開設され、医師をはじめとする複数の医療従事者や大学院生など合わせて900人ほどの受講生を受け入れている。

また、7つの拠点全てにおいて、各テーマに対応する優れた人材を養成する多彩な教育プログラム・コースが展開されており、当初の目標を上回る受講者の参加を得られ、事業責任者のリーダーシップの下、事業に取り組んでいる。

さらに、各大学の取組内容においては、関係機関と連携し本事業の成果の効果的な普及・促進に向けた特色のある教材の開発に取り組むなど、地域の実情に応じた質の高い医療体制の確保につながることを期待される取組が見られた。

なお、各取組により、人材養成の領域や事業計画、連携大学の有無、地域の実情等がそれぞれ異なることから、今回の中間評価は各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できるか否かを評価したものであることに御留意いただきたい。

### 3. 現状の課題

一方で、取組によっては、例えば以下のような課題もある。

- ①プログラム・コースによって、想定していた受講者の職種に偏りが見られ、有効な改善策が明確にされていない。
- ②本事業の成果を事業連携大学以外の他大学等に対して、広く普及・促進させるための広報戦略や分かりやすい情報発信が十分でない。
- ③補助期間終了後の事業の自立的な継続のための検討が十分でない。

### 4. 今後の取組への要請事項

本事業の趣旨に沿った優れた人材を多数輩出するため、当面の事業推進にあたり、各大学には、今回の中間評価結果における本委員会のコメントや、以下に記載の事項等を踏まえ、取組の一層の推進を要請する。

- ①各受講者のバックグラウンドを踏まえた、具体的なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。
- ②人材養成の取組の他大学・他地域への普及・促進に向け、ポストコロナの新しい時代を見据えた、講義のオンライン化等の教育手法を取り入れた教材・教育マニュアルの充実を図ること。
- ③事業実施大学及び連携大学だけで取組が閉じないよう、他大学等への積極的な広報戦略を立案するとともに、これに基づく効果的な活動を展開すること。
- ④補助期間終了後の事業の自立的な継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。

上記の要請内容については、今後行う予定の事業終了後評価の際に確認することとしたい。

## 取組概要及び中間評価結果

### <総合評価結果>

評価	総合評価基準	件数
S	順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。	3件
A	順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	3件
B	おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	1件
C	改善を要する事項があり、このままでは目的を達成することは難しいと思われるので、留意事項を考慮し、当初計画の大幅な変更が必要と判断される。	0件
D	特に重大な課題があり、今後の努力を持っても当初目的の達成は困難と思われるので、補助事業を中止することが必要と判断される。	0件

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(精神関連領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	1
申請担当大学名 (連携大学名)	筑波大学 (茨城県立医療大学・東京慈恵会医科大学)
領域	精神関連領域
事業名	精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成
事業推進責任者	医学医療系臨床医学域精神医学教授・新井 哲明
取組概要	
<p>本事業では、増加および多様化する精神疾患・障害に対し、トランスディシプリナリーなチームで対応できるメディカルスタッフを養成する。多様性に対応するため、多分野の精神医療専門家を擁する筑波大学の学内連携、茨城県立医療大学および東京慈恵会医科大学との大学間連携、地域連携という3つのリソースを活用する。教育プログラムの運用では、10年以上の実績がある筑波大学の全国がんプロeラーニングクラウドと連携し、隅々の講義対象者にまでアプローチする。さらに、独自に作製するドラマ形式の映像教材を利用し、より実践的な教育を行う。全ての多職種協働へのオールラウンドな対応を習得する履修証明コースと、疾患特異的に多職種協働を学習するインテンシブコースを用意し、多様な学習を可能にする。これらにより、精神科リエゾン、リハビリテーション、コミュニティケア等多様な状況での多職種協働に対応できるメディカルスタッフが養成される。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) S	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。</p>	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○カリキュラムは職種相互の役割理解、コミュニケーションスキルに加えて、幅広いメンタルヘルス領域をカバーしている。</p> <p>○充実したeラーニング、ビジュアルコンテンツを作成、利用していること、さまざまなツールを用いて発信、相互連携していることは高く評価できる。</p> <p>○実習・演習のオンラインプログラムは、COVID-19禍においてのみならず、物理的な距離等から研修を受けにくい対象者にとって学習を容易にするものであり、地域格差の是正という意味で適切なものと考えられる。</p> <p>●非常に多くの機関の担当者が関与しているが、その役割分担や連携のあり方がやや不明である。</p> <p>●他大学と連携して全ライフサイクルのメンタルヘルスを連続的に検討してほしい。</p> <p>●本プログラムの受講者数に職種によって偏りがあるため、改善が望まれる。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(精神関連領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	千葉大学
領域	精神関連領域
事業名	メンタル・サポート医療人とプロの連携養成
事業推進責任者	大学院医学研究院 認知行動生理学 教授 清水 栄司
取組概要	
<p>一般日常診療の場で遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等を持つ患者および家族が向精神薬依存にならないよう、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等がセルフヘルプをガイドする月1回30分計6回の簡易(低強度)認知行動療法的アプローチによる相談支援を行うメンタルサポート医療人(メンサポ:英国でのPsychological Wellbeing Practitionerに該当)養成をオンライン授業やネット教材を活用して行う。同時に、統合失調症や双極性障害等の難治性精神疾患や司法精神保健、ギャンブル依存に対して精神科医が生物-心理-社会的観点からの適切な診断と薬物治療を提供できるメンタルプロフェッショナル(メンプロ)養成を行う。一般医療者と精神科医が共に学ぶ症例検討会を演習として行い、うつ不安尺度のデータを基にした軽症者と重症者の相互紹介ネットワークモデルを推進し、全国に普及する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○認知行動療法への社会的ニーズは高く、他大学とも連携して学習の機会を設けていることは評価できる。 ○メンタルサポート医療人とメンタルプロフェッショナルを区分してそれぞれのニーズに沿った学習が行える体制が整っている。 ○メンタルサポート医療人養成コースは、認知行動療法に焦点化した演習が特色であり、専門職認定につながるようなキャリアパスについて計画されている。</p> <p>●メンタルプロフェッショナルコースの教育効果の評価が、論文・研究発表やチーム医療等における発言だけでは足りないのではないかと。 ●この知識やスキルを身に付ければ所属する職場でどういう役割をとれるかなど、メンタルヘルス問題への臨床実践能力を高めるキャリアパス形成支援の具体的な方策を明らかにしてほしい。 ●受講人数にもよるが、受講料のみの財源では持続性に疑問が残る。 ●外部評価委員は多職種から選択してほしい。 ●他大学・大学病院への普及・展開における取り組みの内容が不十分である。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(精神関連領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	3
申請担当大学名 (連携大学名)	東京大学
領域	精神関連領域
事業名	職域・地域架橋型-価値に基づく支援者育成
事業推進責任者	大学院医学系研究科長 齊藤 延人
取組概要	
<p>本事業は、「人がどう生きるか」を、《脳・生活・人生の統合的理解にもとづく主体価値の形成・発展》とモデル化することにより、この「価値精神医学(value-based psychiatry)」にもとづく支援を行える人材を育成することを目指す。価値精神医学は、①当事者の価値を支えるために、当事者との共同意思決定により回復を共同創造すること(co-production)、②トラウマによる価値の傷つきを熟知し、当事者の安全・安心・信頼を支えること(trauma-informed care)、③支援組織が管理的都合中心ではなく、当事者中心であるよう自らの組織を改革し続けること(organizational change)、を構成要素とする。このような理論構築のもと、当事者の価値を統合的に支えるための職域架橋や、当事者の地域での主体的生活を支えるための地域連携を行える医療人やピア人材を育成する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) S	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。</p>	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○連携大学、自治体、地域を巻き込んだ連携体制が構築されており、「価値精神医学」にもとづく支援を行える人材育成が事業計画に則って着実に実施されている。特に、多職種を受講生が相互交流をもてるような合同プログラムの企画は、多様性に対応する支援者の育成に直結するものであり、今後の成果が期待できる。</p> <p>○C-1コース准公式テキストの出版は、目標である「価値に基づくサービスを実践できる人材の育成」に繋がる成果である。</p> <p>○プログラムを通して習得した能力を活かせる職場へ就職できた受講生が出ており、キャリアパス形成に繋がる取組ができています。</p> <p>○学内に「医学のダイバーシティ教育研究センター」が新設され、教員が配置されること、受講料を運営費に充てることなど、事業終了後の自立化の目途を当初予定より早期に立てられたことは高く評価できる。</p> <p>●これまで歯科医師、薬剤師の受講生が一人もないことは課題としてあげられる。</p> <p>●職域・地域架橋型コーディネーター養成コースCの受講者がさらに多数になっても教育効果についての把握や評価が細やかになされる体制が継続されること、精神領域高度ピア人材の養成者数をもう少し増やされることを期待する。</p> <p>●一部の外部評価委員にプログラムの講師を依頼している点はCOIの観点から適切とは言えず、明確に区別すべきである。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(精神関連領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	4
申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学
領域	精神関連領域
事業名	発達症への介入による国民的健康課題の解決
事業推進責任者	医学研究科長・岩井 一宏
取組概要	
<p>本学医学研究科は我が国で早期から自閉スペクトラム症(ASD)の医療に取り組んできたという経緯と、人間健康科学系専攻という部門を有し、精神科リハビリテーションや精神科看護学など医療を広くカバーするとともに多様な医療職を養成しているという特長がある。そのため、ASDの精神生理に精通した教員が、チーム医療の構成員となる医師、コメディカルのほか、公認心理師や養護教諭などの医療関連職の資質向上にあたるのが可能である。この地盤を活かし、本事業ではメンタルヘルスの問題の背景にあるASDを的確に診断し、ASDの特徴的な精神生理を理解し、保育、教育、就労、社会生活などライフステージを通じて生じる課題に対し適切に対応し得る高度専門人材を育成するプログラムを提供し、関連分野の専門家の協力を得つつ実施する。このプログラムで育成した人材の輩出により、メンタルヘルスにおける国民的健康課題を解決することを目的とする。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等</p> <p>○発達症、特に自閉スペクトラム症(ASD)に焦点をあて、関連する多様な場における精神保健・医療の視点を展開していることはユニークで評価できる。 ○警察職員や学校医など、直接的な専門職でない対象者への啓発活動が行われている。</p> <p>●達成目標に関連して、本プログラム修了者の所属機関での役割や、発達症リハビリテーションネットワーク拠点の役割を明確にする必要がある。 ●職場、学校、周産期ケアの現場などで、ASDの概念の受容度がどのように変化したかなど、実装研究の視点からの評価がなされていくことが望まれる。 ●今後はライフステージに応じたチーム医療体制の構築と共に、ASDを支える人材として一般企業も含め就労・雇用の分野との連携や人材の育成も視野に入れていただきたい。 ●キャリアパス形成に対する本プログラムの見通しが明確でない。 ●財源を受講料にのみ依存することは持続性に不安が残り、計画している座学特化型コースについては、質を下げない工夫が望まれる。 ●地域医療との連携、行政との連携を、他大学等に普及・展開していくこと、特にWEBサイトなどを通じ、本事業のアウトカムなど、全国の大学等への参考となる情報発信が望ましい。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(医療チームによる災害支援領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	1
申請担当大学名 (連携大学名)	東北大学 (福島県立医科大学)
領域	医療チームによる災害支援領域
事業名	コンダクター型災害保健医療人材の養成
事業推進責任者	東北大学病院 総合地域医療教育支援部 教授・石井 正
取組概要	
<p>本事業は、東北大学(医・歯・災害研)及び福島県立医科大学(医)が共同で実施する。自然災害、CBRNE災害、それらを合わせた複合災害に対応でき、様々な職種とチームとして協働でき、他組織と連携し、急性期から慢性期にかけて現場でも後方でも機能する「コンダクター型災害保健医療マネジメント人材」を養成する。医師、行政担当者含む災害医療関連他職種を対象とし、ICTにて広域で双方向の議論が可能な環境を担保しつつ、東日本大震災時に実働した両大学及び連携組織の長期間の災害対応経験、原子力災害対応経験、後方支援経験を基に教育コンテンツを構成し、これらの組織のコアメンバーを主な教育スタッフとして、総合的スキルを修得するための「災害マネジメントコース」を設置する。同コースを基盤研修とし、これに社会医学系専門医資格取得や学位取得可能なカリキュラムを付加したキャリア形成や研究推進可能な学習コースも併せて設置する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○災害マネジメントコースには、多職種の多くの受講生があり、受講生の多くが修了後に災害医療ロジスティクススタッフに登録見込など、災害支援に寄与することが期待される。 ODPAT(災害派遣精神医療チーム)を含めた各種災害医療セミナー・実習に取り組んでいる。</p> <p>●実習科目で一部受講達成度の悪いものがあるため、実習の意義を踏まえ、100%の達成を目指してほしい。 ●保健師や介護分野人材など他職種の受け入れ拡大に向け、公衆衛生的、中・長期的な災害支援の観点での専門家や教育カリキュラムを用意した方が良いのではないかと。 ●災害マネジメントコースでは、多職種が参加しているため、各職種に対応したキャリアパスを検討してほしい。 ●今後はウェビナー等により展開を広げていくべきで、特に宮城、福島だけでなく、岩手、茨城、千葉など東日本大震災で被害があった県などでも行うのはどうか。また、公的機関の他、事業実施大学以外の大学への事業の普及・促進に向けた一層の努力を期待する。 ●多彩で大きな事業であるため、もう少し外部の委員を増やして評価を客観的に行うべき。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(医療チームによる災害支援領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	2
申請担当大学名 (連携大学名)	新潟大学
領域	医療チームによる災害支援領域
事業名	実践的災害医療ロジスティクス専門家の養成
事業推進責任者	新潟地域医療学講座 災害医学・医療人育成部門 高橋 昌
取組概要	
<p>本プログラムは、新潟大学医学部災害医療教育センター、災害・復興科学研究所等の新潟大学組織を中心に、新潟県、新潟薬科大学、新潟医療福祉大学、日本災害医学会、国立病院機構災害医療センター、兵庫県災害医療センター、日本赤十字社医療センターほか全国の組織および、各職域災害認定制度の担当者等と広く連携・協力して実施する。本事業では「医師」「歯科医師」「薬剤師」「看護師」ほか災害医療関連多職種を対象とし、厚生労働省指針で最重要課題と位置付ける「心のケア」「生活不活発発病の予防」「口腔ケア」を中心に、災害医療活動を支える災害医療ロジスティクス専門家養成のプログラムを履修証明プログラムおよび大学院修士課程で実施する。各職域の災害医療ロジスティクス資格取得制度と整合性のあるプログラムとして個別の資格取得も支援し、リーダーとなる実践的な災害医療ロジスティクス専門家を養成するプログラムの全国普及を目指す。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○災害医療ロジスティック専門家を養成するための系統的学習モデルプログラムを確立し、コロナ禍の中においてもZOOMのブレイクアウトルームを活用した双方向のWEBセミナーを採用するなど、目標を上回る実績をあげている。また、全国から広く受講生を受け入れている点も評価できる。</p> <p>○多様なプログラム、カリキュラムを準備し、そのe-learning化など、教育プログラムとしての充実が図られており、他の災害GPとの連携も含め、全国的なモデルカリキュラムとなりうるものと期待する。</p> <p>○新潟薬科大学との事業・人事交流を実施し、災害薬事教育の普及に寄与することについては、取組として評価できる。</p> <p>●受講者が履修証明書、受講証等の受講履歴をもって活躍する具体的なキャリアパスについて検討を加えて欲しい。</p> <p>●地域コミュニティや行政、そして多職種間の連携に関しては、プログラム上の講義・セミナー等に含まれているが、今後実質化されることを期待する。</p> <p>●他大学との連携については、コンテンツの相互乗り入れや共有に留まっており、今後、より深い連携のもとでのプログラム改善が望まれる。また、他大学等への事業の普及・促進にさらなる改善を要する。</p>	

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(医療チームによる災害支援領域)  
の取組概要及び中間評価結果

整理番号	3
申請担当大学名 (連携大学名)	熊本大学 (九州大学)
領域	医療チームによる災害支援領域
事業名	多職種連携の災害支援を担う高度医療人養成
事業推進責任者	熊本大学病院長 谷原 秀信
取組概要	
<p>本プログラムでは熊本大学災害医療研究教育センターを設置し、九州大学歯学部と連携して、医師会、歯科医師会及び行政機関の協力を得て、超急性期～急性期の支援に加え亜急性期～慢性期で問題となる慢性疾患等を対象とした長期的視野で活動可能な医療チームを構成する多職種の人材(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士等の医療職や行政担当者等)を育成する。</p> <p>プログラムは学校教育法第105条に基づく履修証明制度とし、熊本大学と九州大学が教育を分担し、チーム医療の講義、実習および訓練の一部は両大学が共同で実施する。</p> <p>災害時に実践的に対応する医療職とこれらを統率する行政職を育成し、チームとして派遣するシステムを構築するとともに、平時にも多職種による二次医療圏での連携の充実を図り近隣型防災拠点を整備し、さらに、九州内の広域相互支援に対応できる高度医療人を育成する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) S	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。</p>	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善を要する点等	
<p>○大災害の経験をもとに、災害の現場で必要とされる多職種連携、行政との連携、また災害のステージごとの活動についても焦点を当てており、実践的な教育プログラムを構築、運営している。また、各方面からの多くの参加人数の実績がある。</p> <p>○立場の違う医療支援を俯瞰的に学び多職種連携を可能にしたこと、特に医科歯科連携体制整備は優れている。</p> <p>○履修修了者について災害医療教育研究センター派遣チームに登録し、災害発生時の多職種連携チームによる医療支援体制を整備することは実質的であり、その波及効果は大きいものと期待する。</p> <p>○外部評価委員会が大学や病院の医師のみではなく、多様なステークホルダーから成り立っていることは評価できる。</p> <p>●医師・歯科医師のコースと医療系専門職のコースに分けているが、他職種協働を謳っている点では今後は災害リハビリテーションや公衆衛生学的な見地でのコースも期待する。</p> <p>●受講生のキャリアパスに関して、スキルを用いた具体的な道筋を考えてほしい。</p> <p>●他職種協働や災害時の調整本部などの視点を入れているのであれば、慢性期対策としての介護分野や行政の関係者が事業担当者に入っていないのは不十分ではないか。</p>	